

平成28年度第1回弘前市立博物館協議会会議録（要旨）

日時 平成28年11月24日（木） 午前9時50分開始 11時40分終了
場所 弘前市民会館 管理棟2階 第一小会議室
出席者 葛西 徹 委員長（議長） 島内 智秋 副委員長
小嶋 義憲 委員 北原かな子 委員
出 佳奈子 委員 武井 紀子 委員
瀧本 壽史 委員 鹿内 葵 委員
船越 和幸 委員 広瀬 寿秀 委員（10名）
欠席者 なし
事務局 館長 佐々木健一 館長補佐 成田正彦 主幹兼学芸員 三上幸子
主査 川村快之（4名）

次 第

1 辞令交付

佐々木教育長より各委員へ辞令交付。

2 教育長挨拶

3 職員紹介

4 組織会

小嶋委員が、葛西委員を委員長に、島内委員を副委員長に推薦し、他に推薦がなかったことから、採決した結果、全会一致で承認。

平成28年度第1回弘前市立博物館協議会

5 案件

(1) 平成27年度事業報告について

(2) 平成28年度事業計画並びに経過報告について

(3) その他

6 閉会

議長

平成28年度第1回弘前市立博物館協議会を開催いたします。

全委員出席となりますので、会議は成立します。

案件の審議に入ります。(1)「平成27年度事業報告について」、事務局より説明をお願いします。

事務局

【配付資料に基づき、事務局より説明】

議長

質問や意見がありましたら、お願いします。

船越委員

常設展の観覧者数は分かりますか。

事務局

企画展に常設展を併設していますので、記載の数が全ての観覧者数となります。

船越委員

平成27年度は大分減っていますが、観覧者の目標値はありますか。

事務局

3万1千人を設定しています。

船越委員 親子鑑賞会、館長講話の人数が減っていますが、要因は何ですか。

事務局 親子鑑賞会は特別企画展が2回から1回に減ったこと、館長講話は平成26年度の1回目が定員を設けなかったところ200人を超える参加者があり、以降100人としたものです。また、長谷川先生が博物館に来られた年ということもあり、平成26年度は参加が多かったと思います。

鹿内委員 企画展はどのような形で決定していますか。

事務局 博物館が原案を作り、市内部で協議のうえ決定しています。原案作成に当たっては、市としての取り組みを考慮して作成しています。春先は観光客が多いため、弘前の歴史を紹介する展示、特別企画展はマネジメント会社からの企画書を参考にしています。

鹿内委員 要望などは受けていますか。

事務局 要望は受けていません。

北原委員 常設展をいつでも見られるようにできませんか。

事務局 展示替え期間は資料の搬入搬出があり、常設展のみを観覧できる動線にはなっていません。バックヤードへの職員の動線も観覧者とは別の動線を確保できないため、構造上無理となります。

広瀬委員 博物館は、これまでは美術館がなかったこともあり美術の展示も行ってきましたが、美術館ができることにより、今後、どのような方向性になりますか。

事務局 高照神社に隣接する資料館とは、棲み分けすることで協議していますが、美術館とは、できていません。

広瀬委員 寄贈や収蔵を含めて美術館との棲み分けは、早く行った方が良いと思います。

事務局 美術館の事務局とは、絵画の寄贈の話があれば後は、美術館で受ける方向で話しています。

出委員 美術館はコンテンポラリーアートを中心に行うと聞いているので、博物館でこれまで特別企画展で扱った資料とは異なるため、既に棲み分けされていると思います。

事務局 市のホームページにも美術館では3億円で15点ほど資料を購入すると掲載されています。また、収蔵庫も思ったよりは大きくないときいています。

議長 市民の皆さんの関心が高いものは、この協議会でも話題に出来ればと思います。他になければ、案件(2)「平成28年度事業計画並びに経過報告について」、事務局より説明をお願いします。

事務局 **【配付資料に基づき、事務局より説明】**

北原委員 多言語案内は良い取り組みですが、その内容については翻訳ソフトで簡単にできるものではありません。展示の顔を紹介するものであり、今後も続くのであれば、ボランティアと言うよりは予算を確保して進めた方が良いと思います。

事務局 弘前大学私費留学生への市補助に伴うボランティア活動に該当させて、お願いしています。国際教育センターからも、経費は不要であるとの助言を得て進めています。

島口委員 出前講座には他にどのような講座がありますか。例えば、東北女子大で開催している「津軽を知る」という講座にゲストとして参加してもらえるものですか。また、「ねぷた」に関しては、子ども向けに地域のことを身近に感じてもらえる取り組み

になると思います。

事務局 博物館では「津軽の歴史～藩主たちの時代～」という講座しかありません。ただし、これに限らず要望があれば学芸員が対応しています。市全体では、多くの講座があります。

武井委員 親子鑑賞会や歴史講座などはどのような方法で広報していますか。

事務局 いずれも「広報ひろさき」に掲載しています。また、歴史講座は博物館ホームページにも掲載しています。

武井委員 小中学生だけではなく、高校や大学生の入館者を増やすための広報や取り組みも必要だと思います。

鹿内委員 スポネットでは、親子レクをPTAの行事として年間50～60回行っていて、人気となっています。楽しく歴史を学ぶ取り組みとして、いろいろとプログラムを組めればよく、例えば、ウォークラリーと歴史を組み合わせるとか、楽しければ、口コミで広がります。

事務局 博物館でも、クイズを行ってきたが、観覧者は増えませんでした。子どもへではなく、学校へ働きかけようということで、議会バスを利用しての学校や学級単位での観覧を呼びかけています。

鹿内委員 船越委員も話していますが外に出ることも大事なことだと思います。

事務局 入館者の増加だけではなく、外に出る出前講座の充実や以外の取り組みも大事と思っています。

出委員 今年度の企画展2では高校・大学生の入館者が多く、何か取り組みはしましたか。
事務局 特にありません。大学の授業などで利用されたものと思います。

出委員 展示に合わせて、いろいろな分野の人が学生を連れてくる関係性が構築できると、大学生の入館も増えると思います。

瀧本委員 企画展と特別企画展を開催している状況を聞くと、よくやっていると感じます。短期間の展示替えだけで、いつ学芸員は休んでいるのかと思いました。来館者対応は必要なことですが、これまでの話の中には、博物館だけの仕事ではないものもあると思います。社会教育の組織を活かして取り組むことも必要です。展示の質を上げる、落とさない形で展覧会を開催する必要があると思います。

事務局 学芸員は2人、来年度は1人増員される予定です。学芸員の努力でこれらの企画展を行っています。本来は研究もできればよいのですが、現状では精一杯です。今後も、学芸員の充実に努めてまいります。

出委員 広報について、観光などとは連携していますか。

事務局 ポスターやパンフレットは市内に配付していますし、観光などにも情報提供しています。前川のコーナーは、小規模であるため、広報はしていません。

出委員 観光イベントと掛け合わせて、広報すると他方面から人を呼べるイベントになると思います。

事務局 市では、今後、前川建築のネットワークを作り、取り組むことになっていきますので、今後は、ますます展示を含めて見せ方の工夫が必要になってくると思います。

議長 次に案件（3）その他について、お願いします。

事務局 平成27年度の協議会の意見への対応状況を報告します。1つ目は、学芸員の体制強化です。学芸員は平成29年4月からは1名増員となる予定です。今後も体制の充実を目指していきます。

2つ目は、議会バスの活用と他のイベントとのタイアップです。今年度は特別企画展でバスを利用して5校が観覧しました。また、去年は、天守曳屋に参加した市内の小学校12校に博物館を観覧していただきました。

3つ目は学校への次年度開催予定展覧会の紹介です。11月14日に小中学校長会議で来年度の特別企画展の予定と行事への組み込みをお願いしています。

4つ目は学校所蔵美術品の実態把握です。平成4年に調査しているとともに、学校の備品を管理する学務健康課でも把握していますので、必要なときは活用できます。

議長 平成26年度は多言語についても意見が出ましたが、その件は少し進んでいるということで喜ばしいことです。

広瀬委員 寄贈、寄託の件です。博物館という訳ではありませんが、紙に記載して手続き終了、相応しくないから拒否など対応が冷たいなどの話を聞きます。代替わりにより寄贈したい人が多く、その際のシステム化ができないものでしょうか。

事務局 博物館では、当初、資料なしから始まったため、職員も大変苦勞し、寄贈を沢山受入れしました。また、博物館は史跡内にあり、収蔵庫を拡張できないため、現在、収蔵スペースが狭小で容易には受け入れ出来ない状況にあります。

北原委員 受入れ出来ない以上、システム化は無理ですね。
企画展を減らして、学芸員の業務量を減らすことが必要です。常設展だけの展示があってもよいと思います。現状では、学芸業務に危機感を感じます。

瀧本委員 博物館の評価というものをどの観点で行うのか出してほしいと思います。歳入歳出もあるだろうし、観覧者数や研究者への対応など、その年の重点目標などがあればよいと思います。

議長 今、出すことは無理にしても、確かに大前提があることはよいことです。

事務局 現在、出せる指標は入館者数しかありませんが、そのような指標はあってもよいと思います。

北原委員 研究機関としての博物館はすごく良いことと思うので、他の視点でも評価してほしいと思います。

瀧本委員 研究した成果が展示で発表されることになります。

議長 少ないスタッフで大変ですが、図録も刊行されましたので、研究紀要の発刊も期待しています。

小嶋委員 このスタッフでよくやっていると思います。

鹿内委員 一般のボランティアの活用はどうゆうものですか。

小嶋委員 レベルの問題があります。少しわかっているだけだと、かえって邪魔します。

瀧本委員 後援会の実態はありますか。

事務局 後援会は存在します。会費を納めていただいて、博物館の事業の後押しに活用されています。人的なサポートはありません。

北原委員 人的サポートは郷土館でも難しい面があり、無償で私も応援したことがあります。博物館でも、構築できればよいし、個人的には協力します。

瀧本委員 友の会のような組織は、場合によっては重荷になる可能性があります。たくさんの人をまとめることが大変で、これも学芸員の仕事になるため、郷土館では作りませんでした。

議長 博物館の後援会は、入会すると観覧料が無料となり、貯めた会費で、出物があつた場合に購入し博物館へ寄贈しています。いわゆるファンクラブのようなものです。

事務局 博物館では重荷になっていません。必要な存在です。

船越委員 太宰学びの家など指定管理になっていますが、博物館もその対象と受け止めています。博物館が今後どのように対応していくのか、新しい博物館像が必要で、その検討が必要と思います。

事務局 ご意見を受け止めて進めてまいりたいと思います。

議長 それでは、以上をもちまして協議会を終了いたします。

事務局 長時間に渡ってありがとうございました。なお、委員名簿と本日の会議の会議録につきましては、市ホームページに掲載されますので、ご承知置きください。